



穏やかに眠っていたはずの父が、なぜ、わずか4時間後には肺炎を起こして呼吸困難に陥るほど悪化したのか、どうしても理解できませんでした。

転院した病院の担当医の説明では、老人にはよくあることで、胃酸や唾液の逆流によって起こる...とのことでした。

父は心臓病の薬と一緒に胃潰瘍の治療薬も長年服用していました。胃潰瘍の治療薬は胃酸の分泌を抑えるもので、おそらく心臓病の治療薬の副作用を防ぐために処方されていたものと思われます。

胃酸の分泌量が抑えられ、唾液の量もそれほど多くないであろう九十歳の老人の肺炎が、それらの逆流によってひき起こされるとは、私には納得のいかないことでした。

しかも担当医は「血圧や排尿が安定しているのは、心臓が強いから」と説明を続けます。

「父は心臓病の薬を何十年も飲んできました」と私が言うと、担当医の答えは「いいえ、今は心臓病の薬はいつさい使っていません」。

母と私は思わず顔を見合わせました。心臓が強い...きつと飲ませていた漢方薬のお陰だと直感しました。

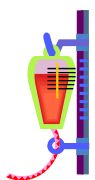
病室で父はまた点滴につながれ、両腕を抑制されていました。せつかく点滴や酸素マスクから解放され、一時帰宅も叶うかもしれないと思っていたのに。

「こりゃあ地獄やね」。母と私を見るなり、父が発した言葉です。

認知症の症状が目覚ましく改善し、自分がいまでのような状況に置かれているかが認識できているので、両手をベッドにくへくの付けられている屈辱感にじみ出ているのです。

そんな父を見て、いっそも認識できないときのほうがよかったのかもしれないと、複雑な想いが私の胸を去来しました。

それでも気を取り直してゼロから再挑戦です。



つづく

いろいろ春野菜の卵とじ

材料 (4人分)

- 鶏ひき肉 200g
- にんじん 1/3本
- 新たまねぎ 1個
- グリーンアスパラガス 4本
- 三つ葉 1把
- だし汁 1.5カップ (300ml)
- 卵 4個
- 酒, みりん 各大きじ 2
- しょうゆ 大きじ 4
- A 砂糖 大きじ 1

作り方

- ① にんじんは細切り、新たまねぎは縦半分につけてから、繊維に沿って1cm厚さに切る。アスパラガスは根元の皮をむき斜め切り。三つ葉は3cm長さに切る。
- ② 鍋にだし汁を煮立て、鶏ひき肉をほぐしながら入れる。アクをとり、Aを加えてひと煮立ちさせ、三つ葉以外の①を加える。
- ③ 野菜がやわらかくなったら、強火にして溶き卵を回し入れる。鍋をゆすりながら卵が半熟状になったら火を止める。三つ葉を散らし、器に盛る。

植山美保 カンタン5月の薬膳

簡単にできる初夏の一品は

心をリラックスさせてくれますよ。

三つ葉のさわやかな香りが、気のめぐりをよくします。さらにセロリも加えてみてはいかがですか。

